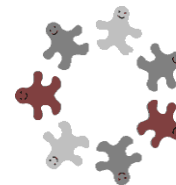




# NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing  
— JSPON —  
News Letter Vol.32



2020 年は、新しい生活様式が始まり、この半年間なかでも、家庭生活、学校生活、病院環境にも大きな変化が生じました。このような状況のなか、子どもとその家族の笑顔を守るために、様々な活動にご尽力いただいたことに厚く御礼申し上げます。

学会としても、皆様方とウィズコロナの活動を共有しながら、更に発展できるよう努めてまいります。

## 第 18 回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第 18 回日本小児がん看護学会学術集会は、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症拡大により、初の WEB 開催 (一部【ライブ配信】を含む、【オンデマンド配信】) となりました。【オンデマンド配信】プログラムは、2020 年 11 月 20 日 (金) から 12 月 18 日 (金) までの 4 週間、閲覧いただくことができます。当初の予定通り、【ライブ配信】は 2020 年 11 月 21 日 (土)・22 日 (日) に行います。WEB 開催に伴い、今年は学術集会ホームページからの参加登録が必須となります。

【オンデマンド配信】となる、「看護一般口演」は、すべて音声つきのスライドによる発表となります。Q&A フォームが付いている演題に対しては、オンデマンド配信期間中に質問・意見を受けつけます。また「二学会合同シンポジウム」は、4 名のシンポジストからのご発表に加え、学術集会参加者からも広く「居住地を離れて治療を受ける子どもおよび家族のニーズと支援」について生の声をお寄せいただけるようにし、実践への貴重な示唆を得る機会としていくことを考えております。

指定演題プログラムは、すべて【ライブ配信】いたします。そのなかでも、21 日 (土) の「看護特別講演」と「ケア検討委員会ワークショップ」、22 日 (日) の「学術交流セミナー」の 3 つは、見逃し配信は無く、視聴機会は一回限りとなります。どうかこの機会を逃さぬようにご参加ください。

21 日 (土) の「看護ミニワークショップ」、「教育セミナー」、22 日 (日) の「看護教育講演」、「看護シンポジウム」は、【ライブ配信】された模様を、12 月初旬から 12 月 18 日 (金) まで【オンデマンド配信】いたします。WEB 開催であっても、質疑応答、意見交換、ディスカッションといった双方向のやりとりができる時間を設けるなど、いずれも趣向を凝らした企画を準備いたしております。

市民公開講座である「三団体合同シンポジウム」の他にも、「看護一般口演」以外の【オンデマンド配信】は、小児 (AYA) がん患者・経験者・ご家族・支援者も参加可能です。また例年同様に、大学院生を除く医学生・看護学生は無料で学術集会にご参加いただけます。

学会認定資格である「小児がん看護師」について、21 日 (土) 12:00-12:50 と 22 日 (日) 15:40-16:30 に、個別相談の機会が設けられています。こちらは、学術集会への参加申込みをしなくても相談可能です。どうぞこの機会をご活用ください。

多くの方々と WEB 上で安全に参集し、新しい様式での学術集会を存分に楽しみながら、学び合う場となるよう、鋭意努力して参ります。

第 18 回日本小児がん看護学会学術集会会長 古橋知子  
(福島県立医科大学看護学部)

〔テーマ〕 **「受け継ぐ命 紡ぐ明日」**

〔プログラム〕

【オンデマンド配信】：2020 年 11 月 20 日 (金) ～12 月 18 日 (金)

一般口演、二学会合同シンポジウム「居住地を離れて治療を受ける子どもおよび家族のニーズと支援」

【ライブ配信】：2020 年 11 月 21 日 (土) ～22 日 (日)

看護特別講演	㊦	死から生をみつめる－緩和ケア病棟での活動から－
看護教育講演	㊦→㊧	子どもの権利擁護と主体性を守るために
看護シンポジウム	㊦→㊧	ICT を活用した子どもおよび家族の QOL 向上のための環境づくり
看護ミニワークショップ	㊦→㊧	小児がん治療後の認知機能障害・高次脳機能障害
ケア検討委員会ワークショップ	㊦	子ども・家族中心ケアを考えよう～日々の実践の中で子どもと家族の声を聴いていますか～
教育セミナー	㊦→㊧	小児がん治療アップデート
学術交流セミナー	㊦	エビデンスと集合知に学ぶ～中心静脈カテーテル管理の実践例～
三団体合同シンポジウム	㊦→㊧	造血細胞移植後の生活

ライブ配信：㊦ オンデマンド配信：㊧

学術集会ホームページ ; <https://www.c-linkage.co.jp/jspho2020/index.html>

## ベトナムにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の状況と影響

当法人は、ベトナムでの小児がんキュア&ケアに取り組み、15年余りになります。ここにコロナ禍におけるベトナムの医療現場の状況、小児がん患児・ご家族への影響についてご報告させていただきます。

ベトナムは COVID-19 対策の初期段階で、断固とした強力な対策をとりました。2020年1月末から段階的な対策を実施し、4月には外出や経済活動を制限する社会的隔離措置がとられました。

設立当初より小児がんプロジェクトでパートナーを組んでいるフエ中央病院では、各所（メインゲート、敷地内の各建物、各階）の入口にスクリーニングポイントを設け、検温、ヘルス・行動範囲チェックシート記入が義務付けられました。



小児センターでは、小児血液腫瘍以外の部署では入院患児さんは激減しましたが、小児がん病棟ではこれまでと変わらず患児さんも多く、感染対策を徹底した中での治療継続に忙しい日々でした。患児の付き添いは1名に制限し、それ以外の方々の面会は禁止となりました。病院外からの食事持ち込みも禁止になり、患児・ご家族の経済的な負担増になりました。また、遠方から通院のためのアクセスの不便、感染者が出ている地域からの患児



についてのスクリーニング、一時的な治療薬不足などに影響が及びました。一時血液製剤の不足にも直面しましたが、病院スタッフや医学生、公務員の方々からの献血協力もあり、大事には至りませんでした。治療の遅延や中断が起こらないよう、医療スタッフによるきめ細やかな説明やオンラインソフトウェアによるコミュニケーションなどの体制に力が注がれました。

“生命と健康を守る”という生命第一の理念と徹底した対策について、逐次の情報発信と透明性に徹し、国民の支持・信頼も得ました。街中には感染対策・予防のプロ

パガンダアートが掲げられ、保健省のホームページには、多くの啓発ポスターが提供されました。一億人近い人口規模の国で、最も被害を抑えた国として注目を集め、「第1波」の感染封じ込めに成功し、リーダーシップとともに社会共同の成果と評価されました。4月17日以降、市中感染は発生せず、徐々に以前と同様の生活スタイルに戻り、ベトナム国内は一定の安心感のなかにいました。



しかし7月25日に、中部の港湾都市・ダナンで99日ぶりの市中感染が確認され、一気に緊張感が高まりました。そして、最初に感染が確認された1月23日以来続いていた「死者数ゼロ」は7月31日に途切れました。再び全土をあげ、迅速で効果的な措置を取り、一ヶ月余りで「第2波」も封じ込めに成功し、現在に至っています。2020年10月23日付の感染状況は、感染者数1,148人、死亡者数35人、回復者数1,049人（感染者の91.3%）で、2ヶ月近く市中感染は発生していません。これまで、小児がん患児でCOVID-19に罹患した症例はありません。

フエ中央病院では、引き続き病院のメインゲートでのスクリーニングは実施し、付き添い・ビジターの人数制限も設けています。普段の業務に加え、さらなる神経を使う日々が続いていますが、患児・ご家族にとってより安全に、そして医療従事者自身にとっても安心な環境であるよう、ポジティブな意識とともに、皆が一丸となって取り組んでいます。



最後に、この状況下、世界各国の医療現場の最前線でご尽力されている方々に、心から敬意を表します。

〔認定〕NPO法人アジア・チャイルドケア・リーグ (ACCL) 代表 渡辺和代

### <日本小児がん看護学会認定「小児がん看護師」第1回集合研修のご報告>

2020年11月1日(日)日本小児がん看護学会認定「小児がん看護師」第1回集合研修が終了しました。今回は24名の受講生が参加し、充実した研修となりました。

今年はCOVID-19という未曾有の感染症が世界に拡散し、日本でも終息が見えないことから7月の研修会が中止となり、さらには11月の福島開催も危ぶまれました。しかし、資格取得を目指す受講生たちの努力と思いを叶えるため、オンライン研修会へシフトチェンジし、主催者側としても細心の準備を諮ってまいりました。おかげさまで、オンラインという肌の温もりを感じる対面式の研修とは異なりますが、グループワークでは熱い議論が交わされ、日頃の実践に活かせる気づきと学びを得

る研修となりました。研修内容は、以下の通りです。

1. 講義「多職種連携チームで医療を推進するために」
2. グループワーク「幼児期の小児がん事例をもとに、子どもと家族の看護を考える」
3. 全体討議、講評

今回参加してくださった24名は、今後e-learningと集合研修の学びをうけて、課題レポートの作成を行います。その後、書類審査を受けて2021年3月には、第1号の「小児がん看護師」が誕生する予定です。認定された方々が、これから臨床にて益々活躍されることを願い、認定委員会としては質の良い研修会を継続できるよう努力してまいります。

認定委員会 井上玲子



## SIOP2020のご報告

今年のSIOPは、初めてバーチャルで開催されました。基本的にすべてのプログラムがライブで開催されており、かつ多くものは録画され、学会終了後3か月間（今もまだ）視聴できます。時差が約13時間あったので、ライブで参加できたのはあまり多くはありませんでしたが、後からオンデマンドでゆっくり見られたのは、英語があまり得意でない私にはとても助かりました。今年、132か国から3350人の参加者があったと、報告がありました。

学会のプログラムは、例年同様、10月14日 [Educational Day] [Pediatric Psycho - Oncology] [Pediatric Radiation Oncology Society] のプログラムが開催されました。私は、[Pediatric Psycho - Oncology] のプログラムの中の“THE PSYCHOLOGICAL IMPACT OF COVID IN PEDIATRIC ONCOLOGY”に参加しました。COVID-19に関する演題が4つ発表されていました。COVID-19流行下における子どもと家族の経験、AYA世代の小児がん経験者が求める情報ニーズ、成人期にある小児がん経験者の心理社会的適応、世界的パンデミックが小児緩和ケア医に与える影響など、テーマは多岐に渡っていました。米国のCCSSのコホート研究の一部であったり、インターネットやFacebookを用いるなど方法を工夫し、今年の3月～6月頃に行われた研究でした。

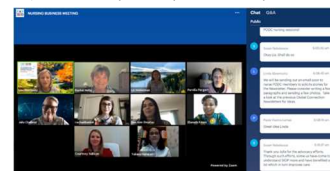


15日から始まった看護のプログラムは、5つのテーマに分かれてのラウンドテーブル、口演7セッション（41演題）、ポスター発表（32演題）で構成されていました。ラウンドテーブルのテーマは、[在宅ケアと栄養] [看護と看護師のセルフケアにおけるキャリアパス] [AYA世代とソーシャルメディア] [痛みのアセスメントと緩和ケア] [COVID19と倫理的問題] の5つに分かれていました。

口演は、下記の7つのテーマに分かれていました。

1. EDUCATION
2. SUPPORTIVE CARE, COMMUNICATION AND PSYCHO-ONCOLOGY
3. PEDIATRIC ONCOLOGY NURSING IN LOW - AND MIDDLE-INCOME COUNTRIES
4. ADOLESCENTS, YOUNG ADULTS AND SURVIVORS
5. ASSESSING, REPORTING AND DOCUMENTING SIGNS AND SYMPTOMS
6. COVID-19, INFECTION CONTROL & HOME-BASED CARE
7. CHALLENGES FACED BY CAREGIVERS AND HEALTHCARE PROFESSIONALS

今年は、イギリスのRachel Hollisさんが、Lifetime Achievement Award（生涯功労賞）を受けました。受賞講演では、WHOGICC（Global Initiative for Childhood Cancer）について話をされていました。GICCは、小児がんに優先順位を付け、2030年までに60%の世界的生存を達成するための政府による能力開発を支援すること、WHOの最初の6つの重点国（ペルー、ガーナ、ザンビア、ウズベキスタン、ミャンマー、フィリピン）の看護師リーダーが指名され、ワークショップや、WHOの代表者との電話会議を通して各国の問題が明らかにされたことなどが説明されました。さらに、今後は各国のリーダーがGICCワーキンググループに参加し、自国の小児がんに関する看護師教育と看護師が安全に働くための環境づくりの重要性についても話されていました。



SIOP2021はホノルル（2021年10月21日～）、SIOP2022はバルセロナ（2022年9月28日～）、2023年はオタワで開催される予定です。

国際交流委員会 小川純子

## CNSのまめ知識

## ＜小児がんの在宅医療の現場から＞

近年、日本でもがんに罹患した子どもを自宅で看取るケースが増えています。わが子を自宅で看取るという体験は、家族にとって辛く、苦痛な経験であることは想像に余りません。家族らは自宅で最期の時を共に過ごす覚悟したとしても、子どもの痛みや呼吸苦などの症状を目の当たりにすることは、容易ではありません。私たち看護師は、限られた時間を生きる子どもと家族の生活を基盤に、適切なケアを提供していく必要があります。

今回は、当院で小児がんのお子さんを在宅で看取った経験から、子どもの生きる最善の利益とは何かを考えてみたいと思います。当院では、2012年から終末期患児の在宅移行支援を行っています。約8年間で死亡患児34名中、在宅での看取りは14名でした。予後不良の患児の治療方針や緩和ケアは、多職種カンファレンス（小児緩和ケアカンファレンス）で検討しています。治療が奏功しない頃から在宅療養を検討し、タイミングを図って患児と家族に説明し支援します。徐々に症状が進行してくると、自宅で亡くなることを見越して準備をし、在宅医につないだあとも患児と家族の意向に合わせて当院の外来通院を継続できるようにしています。自宅での看取りを意思決定し、外来通院ができない状態になると在宅医へ完全移行しています。

在宅医療に移行するにあって、重要なことは、

- ①地域で診てくれる在宅医がいること、または探すこと
- ②疼痛コントロールができ、苦しくなく生活できること
- ③病院主治医と在宅医の密な連携と信頼関係があること
- ④患者の状態が悪化したとき、患者と家族が入院を希望したら、すぐに対応できるように病院（病床）を準備しておくこと

です。

その中で、病院の果たさなければならない役割があります。それは、

- ①意思決定を支える、寄り添うこと：状態が悪化したときにどこまで治療を行うかについて、関係性が深い施設側で意思決定支援を行うことが望ましく、“自宅で看取る”ということも含めて、最期が近づいたときのイメージができるように情報提供します。
- ②患者の状態が悪くなることを想定して在宅の環境を整えること：在宅医と訪問看護の導入・事前の顔合わせ、各種サービスを利用できる準備（地域の相談支援員との連携）をします。さらにADLに合わせて車椅子・入浴方法の工夫・ベット（電動ベットが望ましい）の準備、家の中の導線や段差の有無などを家族と一緒に確認する、介護する人材の確保（両親が介護休暇を取る時期を相談する）などがあります。また吸引器や在宅酸素の準備が必要になることもあります。いつ、何を準備するかは、患児の状態に合わせて、地域の支援者と一緒に相談することが大切です。

しかし、小児がん終末期患者が残された時間をどのように過ごすことが最善か、患児と家族の状況によって選択は異なります。つまり、在宅医療をすすめることで患者と家族の不安が増したり、家族に過度な負担を負わせたりすることは避けなければなりません。私たちは、在宅医療は選択肢のひとつとして提示することが大切と考えています。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター子ども外来  
主任看護師 小児看護専門看護師 黒田光恵



## ◆日本小児がん看護学会の評議員選挙報告◆

去る2020年7月1日～7月31日の期間で、学会として初めての選挙をオンラインにて実施し、評議員（2021年度-2024年度）30名を選出しました。投票率は、東日本42.9%、西日本34.6%、全国39.4%でした。会員の皆様、投票へのご協力ありがとうございました。

評議員の中から互選にて、理事10名監事2名を選出し、11月22日の総会にて選任されることになります。新理事体制の中で、会員の皆様にも委員のご協力をお願いすることがあると思います。依頼があった場合には、是非ご協力頂きますようお願い申し上げます。

評議員（2021年1月1日～2024年12月31日まで）名簿

No.	評議員	地区	所属
1	浅野 みどり	西日本	名古屋大学大学院医学系研究科
2	大西 文子	西日本	日本赤十字豊田看護大学看護学部
3	河俣 あゆみ	西日本	三重大学医学部附属病院
4	笹木 忍	西日本	広島大学病院
5	祖父江 育子	西日本	広島大学大学院医学系科学研究科
6	中谷 扶美	西日本	兵庫県立こども病院
7	榎木野 裕美	西日本	大阪府立大学大学院看護学研究科
8	新家 一輝	西日本	名古屋大学大学院医学系研究科
9	濱田 米紀	西日本	兵庫県立こども病院
10	濱田 裕子	西日本	九州大学大学院医学研究科
11	法橋 尚宏	西日本	神戸大学大学院保健学研究科
12	堀 妙子	西日本	京都橋大学
13	松岡 真里	西日本	京都大学大学院医学研究科
14	入江 亘	東日本	東北大学大学院医学系研究科
15	小川 純子	東日本	淑徳大学看護栄養学部
16	上別府 圭子	東日本	東京大学大学院医学系研究科
17	小林 京子	東日本	聖路加国際大学大学院
18	込山 洋美	東日本	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士後期課程
19	白井 史	東日本	長野県看護大学
20	塩飽 仁	東日本	東北大学大学院医学系研究科
21	竹内 幸江	東日本	長野県看護大学
22	竹之内 直子	東日本	神奈川県立こども医療センター
23	津村 明美	東日本	静岡県立静岡がんセンター
24	永吉 美智枝	東日本	東京慈恵会医科大学医学部
25	名古屋 祐子	東日本	宮城県立こども病院
26	濱中 喜代	東日本	岩手保健医療大学看護学部
27	平田 美佳	東日本	聖路加国際病院/聖路加国際大学大学院看護学研究科
28	古橋 知子	東日本	公立大学法人福島県立医科大学看護学部
29	浦水 理恵	東日本	筑波大学医学医療系
30	渡邊 輝子	東日本	済生会横浜市東部病院

## ◆小児がん看護学会誌編集委員会より◆

＜研究奨励賞授賞式のお知らせ＞

第7回研究奨励賞授賞式を開催いたします。研究奨励賞は、過去3年間に学会誌に掲載された論文から毎年、選考委員による厳正な審査と理事会での承認を経て決定されます。今年の奨励賞は、第18回日本小児がん看護学会の会期中にwebにて、総会終了後の11月22日（日）15:30～15:40に、（総会と同じ部屋で）行われます。

皆様ふるってご参加ください。



## 第19回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

2021年11月25日（木）から27日（土）にかけて、大阪国際会議場にて第19回日本小児がん看護学会学術集会を開催いたします。「ささえ愛、はぐくむ未来」をテーマに、世の中の様々な変化の中で子どもらしさや、子ども・家族の今・未来を考える場となるような企画を検討しています。今年度はCOVID-19感染拡大の影響でWEB開催となりますが、来年度は活気ある大阪に来ていただけることを願っております。

大阪母子医療センター 看護部 田家由美子

## 「小児がん看護師個別相談コーナー」の開設

第18回日本小児がん看護学会学術集会（オンラインライブ配信）で、学会認定「小児がん看護師制度」の相談受付をオープンいたします。申し込みの方法や内容など、質問・疑問等があればいらしてください。下記のURLから入室してください。（予約不要）

〇11月21日（土）12:00～12:50

<https://zoom.us/j/97968812373?pwd=RGIJNGd4dDkrdm p3LOJ0dUJtLy85Zz09>

ミーティングID: 979 6881 2373

パスコード : 815459



〇11月22日（日）15:40～16:30

<https://zoom.us/j/94906641553?pwd=YOUJL005Qk JnaF VTd0oxSHJFOUtNZz09>

ミーティングID: 949 0664 1553

パスコード : 034699



## 国際小児脳腫瘍シンポジウム（ISPNO）のお知らせ

今年、6月に予定しておりました国際小児脳腫瘍シンポジウム（ISPNO）が、12月13日（日）～16日（水）オンラインで開催します。13日のNursing sessionの後に続けて、Family Dayのセッションがあります。そこでは欧州Cancer組織患者諮問委員会（ECCO PAC）の副委員長であり小児脳腫瘍で息子さんを亡くされたKathy Oliver氏と日本小児脳腫瘍の会の代表、馬上祐子氏の「世界での脳腫瘍アドボカシー活動(仮)」と題したセッションが予定されています。詳しくは本学会ホームページでもご案内しております。

## 会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、1月～12月となっております。2020年度の振込みがお済みでない方は、お早目をお願いいたします。

〔会費振込み先〕

郵便振替口座：00590-9-79689

名称：特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会

## 日本小児がん看護学会

理事長

上別府圭子

ニュースレター担当

東海大学医学部看護学科

井上玲子・杉村篤士

埼玉県立小児医療センター

田村恵美

〔連絡先〕

E-mail: rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp